

移り行くもの、滅び行くものではなく、決してなくならないもの、それがこの学校にはあると思って志願していただけるとうれしいですね。



東洋英和女学院小学部部長
山本香織さん

—御校の教育目標である「敬神奉仕」とはどのようなものですか。

山本 これはイエス・キリストが聖書の中でおっしゃった言葉をもとにしていますが、2つの意味があります。「敬神」とは、心を尽くして神を愛することであり、「奉仕」は、隣人を自分のように愛しなさいという意味です。両方ともキーワードは「愛する」

です。これは聖書の中の出来事なのですが、イエス様に最も大切な教えとは何ですかと聞いた人がいました。イエス様を試そうとしたのだと書いてあります。そのときイエス様は、「心を尽くして神を愛すること」と、「隣人を自分のように愛すること」、この2つを答えたのです。キリスト教の最も大切な2つの教えという

ことになります。この教えをもとに東洋英和女学院は「敬神奉仕」を学院標語と定め、「敬神奉仕」を具現化する人間を育てることを教育目標としているわけです。

神を愛することと切り離しては考えられない「奉仕」ですから一般に言われている「奉仕」とはちょっと違うかもしれません。「敬神奉仕」という言葉をお聞きになって、どのようにお感じになるかは、いろいろなお考えがあると思いますけれど、本来は私たちキリスト教信者が一生かかっても行き着けないのではないかと思うぐらいの深く、重く、素晴らしい、人間の生き方だと思っています。

—敬神奉仕はわが家の教育方針と一致しています、と願書を書く保護者もいますか。

山本 ええ。でも無理に家庭の教育方針に結びつける必要はありません。入学してから学んでいただければいいものです。私どもと一緒に神様のことを学んでいく中で一緒に求めていくものですから、入学前にそれができていなければいけないとか、それができている子どもを入学させたいということではありません。

●訓練された言葉遣い、マナーかどうかはわかります

—御校は人気校の一つです。4～5人に1人しか合格しません。入試では、どこかで線引きをしないといけませんね。

山本 ええ。小学部長に就任して何が大変だったかということ、心から志願されていた方のご期待に添えない場合があるということですね。可否の判断に際しては、客観的な判断材料をつくらせてはいただきますが、それが絶対とは思っておりません。仕方がなく、心苦しい思いをしなからしている線引きです。

—言葉遣いやしつけがきちんとできている子と、元気だけれど

もしつけができていない子がいた場合、どちらが有利ですか？

山本 言葉遣いや礼儀がきちんと身に付いているお子さんであってほしいと思いますが、それが受験のために訓練されたものであるのか、それともご家庭の空気から本当にそういうものが出ているのかを見極めなければいけないと思います。また、子どもだけでなく、保護者面接もさせていただきますし、願書も拝見いたします。さらにペーパーテストもありますので、総合的に勘案して可否を決めさせていただきますから、たんに元気のいいお子さんのほうが有利とは限りません。

● 79人の姪ができたと思ってくださいとお願いしました

——こちらでは上級生が下級生の面倒を見る場をいろいろ設けていますね。

山本 たとえば、宿泊行事で6年生と2年生が一緒に行ったり、毎日の給食で5、6年生が1、2年生の面倒を見たり、いろいろなところで上級生が下級生の世話をします。下級生のときにお世話になった子どもたちが、今度は上級生になって自分がしてもらったことを同じようにするわけです。休み時間に一緒に遊んでいたり、上級生が下級生の教室に行ってあげたりというようなほほ笑ましい場面がたくさん見られますが、これは別にこちらから指示をしているわけではありません。入学したばかりの1年生は身の回りのことがなかなかできないので、当初は6年生が、登校してから始業までの時間帯に手伝いに行きます。帽子はここにかけるのよとか、こういうふうなたたむのよとか、その流れで、そのまま休み時間に遊びに行っている6年生もいます。

保護者の皆様にもよく申し上げるのですが、学校全体が家族のような雰囲気にも包まれていると思っております。子どもたち同

士だけではなくて、先生たちも、本当に子どもたちのことを愛していますし、保護者の方々も学校のことにはとても熱心で、協力的に参加していただいています。愛があふれている学校だと思っています。

——上級生が下級生の世話をするというのはいいいことですね。

山本 ご家庭でもそういう部分を期待されていて、うちの子は一人っ子なので、学校でお姉ちゃんがいっぱいできて喜んでいたり、またお姉さんになって下の子の世話ができるから張り切っている、と喜んでいらっしゃるご家庭が多いですね。

お子さんの入学式に、ご両親と母方と父方のおじいちゃん、おばあちゃんが大勢で来られるという場合もあります。私は今回部長職になって初めての入学式の後で、保護者の皆さんに申し上げたんですが、きょう一日朝から我が子をずっと追っておられた、その熱いまなざしを、ぜひほかの79人にも向けてください。80人の娘ができたとはまでは申しませんが、79人の姪ができたと思ってくださいとお願いしました(笑)。

ご自分のお子さんばかりを見てしまいますと、6年間の生活の中で思うようにいかないことがいろいろ出てくるかもしれない。でも、ここの児童はすべて自分の姪だと思えば、ちょっとは考え方が違ってくると思います。たとえば、今日、誰それちゃんにぶたれたと子どもが家に帰って言ったとしても、どっちが先に手を出したのかなとか、〇〇ちゃんは今日はぐあいが悪かったのかな、おうちで何かあったのかな……自分の姪だと思えば、相手を気遣うだけの心のゆとりが出てくると思います。我が子の幸せは学校みんなの幸せの中にあるということを、ぜひご理解いただきたいとまず申し上げました。

——なかなか難しいことですね。

山本 でも、保護者会には、母の会と父の会とがありますが、我が子とは関係ない学年の行事のサポートにも喜んで来てくださる保護者の方がたくさんいます。これはすばらしいなと思います。我が子の幸せは学校全体のみんなの幸せの中にある、とお感じになっていらっしゃるのだなと思って、いつも敬服しています。

●受験のために教会に通う必要はありません

——キリスト教の信者かどうかは合否に影響しますか。

山本 それは一切ありません。キリスト教に接したことがなくても関係ありません。少しでも有利になると思って、受験のために教会に通う保護者も少なくない聞いていますが、その必要もありません。ただ、入学後は日曜日の朝、教会へ行くことを大切にしてもらいます。そのことはご理解していただけるようお願いし、入ってから、こんなはずではなかったと思われたらいけませんので、はっきり申し上げております。

——礼儀作法や言葉遣いがきちんと身に付いているかどうかを重視しますか。

山本 ええ、生きていくうえの基本だと思います。これらは学校が教えるものではなく、ご家庭で教育するのが本来のあり方だと思います。教育と言っても、ご両親あるいはおじいちゃんやおばあちゃんもそうされていて、自然に身につくというあり方が一番すばらしいと思います。そういうお子さんは、やはり違います。すれ違うときに、さりげなく目を合わせて軽く会釈をする、これが1年生でもできる子がいます。

よく教育され、上手に「おはようございます」と挨拶ができる1年生はいっぱいいますが、これはまたそれとは別のもですね。たぶん、一生その本人が合わせ持つ品性のようなものだと思います。

す。高学年になるにつれて、いろいろな種類の挨拶の仕方があると教えていますが、なかなか浸透しません(笑)。声に出してする挨拶もあるし、ちょっと目を合わせるだけでいいときもあるよと。それぐらい細かく教えていますけれども、学校だけの指導ではなかなかむずかしいことだと思います。

●この学校なら幸せな6年間を過ごすことができるはずですよ

——最近、甘やかされて育った子が多くなったと聞いていますが、どんな印象ですか。

山本 お子さんにはたつぷりと愛情を注いでほしい、それは事実です。愛されているお子さんというのは、人を愛することができます。ただ、とても成績にこだわる子が多いのです。テストでいい点をとらないとうちで叱られるとか、100点でなければだめだとか、もし、うちの人がわが子の成績がもっとも気になるのであるとしたら、それは愛情とは違うんじゃないかなと……。私どもの時代は、中高生になって初めて、試験の前に暗記するとか試験勉強をしましたけど、今は早いですね。塾通いもしています。でも、この学校の場合、中学に進学できます。本当に幸せな6年間を過ごすことができると思います。修学旅行とか運動会とか学芸会とか、いろいろな行事で6年生のときに実にいい体験をするんですけど、この時期にこれができるのは受験がないからだだと思います。それが一貫教育のよさだと思うんですけど……。——中学校、高校へは100%進学ですか。

山本 はい、まれな例外はありますが、100%です。ですから、もちろん平常の成績を維持していただくのは望ましいことではありますが、塾通いより学校生活を楽んでもらいたいです。——競争をくぐり抜けて小学校に上がってくる子は、それまで何

でも親にしてもらっていた子どもが多いですね。

山本 自己中心的な子どもが多いような気がします。自分だけで生きているのではないということを学び合ってほしいなと思っています。

——6年間の学校生活で軌道修正されていくんでしょうね。

山本 そうだと思います。入学したばかりの1年生というのはすごいですよ。私が、私が……ですから（笑）。いろいろなお子さんがいますので、小学校生活の間にそれなりに学び合って軌道修正されますから、心配はしていません。

●家族の触れ合いのためのお手伝いであってほしい

——ところで、志願者の多くは、敬神奉仕をはじめとした教育方針にひかれて娘を預けたいというのが志望理由だと思いますが。

山本 そう思ってくださいている方に来ていただきたいと思います。人間が生きていく上で一番大切なものって何だろうと考えたときに、名誉でもない、お金でもない。そんなものは全部いつかはなくなるかもしれないものです。キリスト教の言い方で言わせていただければ、決してなくなるものは神の言葉です。移り行くもの、滅び行くものではなく、決してなくなるものが、もしかしたらうちの学校にあるんじゃないか、そういうふうにお考えになってくださればうれしいですね。私たちはそういう教育ができればいいなと思っています。

——こちらの学校に入学するために、家庭ではどんな準備をしたらいとお考えですか。

山本 月並みではあるんですけども、愛に満ちた家庭の中での触れ合いを大切にしていきたいですね。短い時間の面接や願書に書かれていることを拝見しても、入試のためにどんな準備を

されてきたのかは何となく想像できます。

——先生は願書に全部目を通されるんですか。

山本 はい、全部拝見します。

——志望理由を書くスペースはどのくらいありますか。

山本 B5の下半分ぐらいでしょうか。文例どおりの書き方ではなく、本当にご家庭が見える、すばらしい願書もあります。そういう願書に出会ったときは、どんなご両親なんだろうかとお目にかかるのが楽しみになります。

——家事を手伝わせる効用について、どのようにお考えですか。

山本 小学校に入ってから学校の生活のいろいろな場面で、おうちで家事を手伝っている子は全然違いますね。ちょっとした思いやりがあったり、気がきくなと感心する場合があります。ですから、受験のためにではなく、お手伝いをさせていただきたいと思います。ただ、何歳ではこれをする、何歳ではこれができて当然ということではなく、お手伝いを通して、お子さんとおうちの人が触れ合う機会が増えればいいと思います。受験のための家事手伝いというのではなく、家族の触れ合いのためのお手伝いであってほしいですね。

それから、このことだけはぜひお伝えしたいと思っていることがあります。毎年多くの方に、結果的につらい思いをさせてしまっていることをすごく心苦しく思っているということです。志願していただく皆さんをお受けするわけにはいかない以上、選抜しなければならぬということは、本当に不本意なことをしているなと思います。心から望まれているのに、選抜から漏れてしまった方々には、その結果について、ご自分を責めたり、お子さんを責めたりなさらないようお願いしたいです。

——ありがとうございました。